

令和5年度 財務概要

資金収支計算書

資金収支計算書は、教育・研究その他諸活動に対応するすべての現金・預金の収支のてん末を明らかにしたものです。

収入の部において学生生徒等納付金収入は占める割合が最も大きい科目です。全体の在籍者数は前年度より減少していますが、四日市看護医療大学の学生数が増加したことによって学生生徒等納付金収入は前年度対比19百万円増の2,816百万円となりました。うち大学部門は1,799百万円、高校以下部門は1,017百万円です。手数料収入は、大半が入学検定料で、56百万円のうち48百万円を占めます。ほかには大学共通テスト実施手数料収入5百万円などがあります。補助金収入は、学生生徒等納付金収入に次いで多い収入科目です。学生生徒等数の減少に加え、前年度に多額の校舎建設補助があったこともあり、前年度対比61百万円減の1,005百万円となりました。内訳は、大学部門が230百万円、高校以下部門が775百万円です。付随事業・収益事業収入は正課以外の活動に関する収入で、補助活動収入、受託事業収入、収益事業収入が含まれ、合計で25百万円になります。雑収入は229百万円と多額を計上していますが、そのうち203百万円は退職金財団等からの交付金収入で退職金やみなし退職者分の引当資産への繰入に対応するものです。そのほかには教室や体育館などの施設貸し出し料や高校以下のスクールバス利用料収入など15百万円も含まれます。借入金収入は、大学運営資金として借入期間1年の短期借入金300百万円を調達しました。

以上の科目に前受金収入406百万円、その他収入289百万円、資金収入調整勘定△683百万円、前年度繰越支払資金1,659百万円を加算した収入の部の合計は6,110百万円です。

支出の部において占める割合が最も大きい科目は人件費支出です。今年度は退職金支出が多かったことにより前年度対比87百万円増の2,832百万円となりました。うち大学部門は1,271百万円、高校以下部門は1,561百万円です。教育研究経費支出は、教育・研究活動に係る経費が計上されます。主な支出科目は、修繕費158百万円、奨学費153百万円、光熱水費100百万円、消耗品費56百万円などで、合計で前年度対比4百万円増の777百万円となりました。管理経費支出は、法人運営や管理部門業務のほか、学生・生徒募集や広報活動に係る経費も計上されます。主な支出科目は宣伝費66百万円、高校・中高の通学バス費42百万円、印刷費30百万円などで合計291百万円となりました。今年度はウェブサイトのリニューアルなどを行ったため前年度比15百万円増加しています。借入金等返済支出は、借入期間1年の短期借入金の返済で300百万円です。施設関係支出は建物や構築物の取得価額となりますが、今年度は四日市看護医療大学の空調設備入れ替え12百万円と高校・中高の外灯設置2百万円を計上しています。設備関係支出は各校で購入した教育研究用機器備品97百万円、管理用機器備品9百万円、図書9百万円、車輛9百万円で合計124百万円です。資産運用支出は退職給与引当資産への繰入額136百万円と減価償却引当資産への繰入額68百万円で合計205百万円です。退職給与引当資産は三重県私学振興会から（60歳到達時に）交付される退職交付金を（65歳定年時の）退職金支給に備えて繰入れるもので、交付される都度、繰り入れを

行っています。また、減価償却引当資産についてはコンピュータ機器の入れ替えに備えて、教育研究用機器備品（5年償却対象）の減価償却額相当額を毎年繰り入れています。

以上の科目に前期末未払金支払や預り金支払などのその他支出105百万円、資金支出調整勘定△174百万円、翌年度繰越支払資金1,534百万円を加算した支出の部の合計は6,110百万円です。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、教育活動事業・教育活動外事業・特別の3つの事業ごとに収支の均衡状態を明らかにし、学校法人の財務状況を把握するものです。

教育活動収支においては、収入合計が学納金や退職交付金の増加により106百万円増加したものの、人件費や管理経費がそれ以上に増えたため、収支差額は前年度対比72百万円減の△264百万円となりました。また、教育活動外収支はほぼ均衡しましたが、特別収支は△3百万円となりました。

以上3つの収支を合算した基本金組入前の当年度収支差額は、前年度対比120百万円減の△268百万円となり、基本金115百万円組入後の当年度収支差額は△383百万円となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、資産とその資金調達源である負債や資本を対照表で表すことによって、当該年度末時点の財政の状態を明らかにするものです。

資産の部については、固定資産が減価償却等の影響で前年度対比210百万円減の10,653百万円となったほか、流動資産は現預金減等によって前年度対比61百万円減の1,817百万円となり、合計で前年度対比271百万円減の12,470百万円となりました。

負債の部については、固定負債が借入金の返済等によって前年度比32百万円減の878百万円となったものの、流動負債が前年度対比29百万円増の734百万円となったため、合計で前年度対比3百万円減の1,612百万円となりました。また、純資産の部については、基本金が115百万円の組み入れにより19,282百万円となったほか、翌年度繰越収支差額が前年度対比383百万円減の△8,424百万円となり、合計で前年度比268百万円減の10,858百万円となりました。以上の合計で負債及び純資産の部の合計は前年度比271百万円減の12,470百万円となりました。